



八千代市立みどりが丘小学校

避難キャンプ最終発表

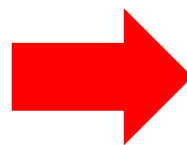
- ①準備に向けて
- ②キャンプ内容
- ③キャンプからの感想・課題
- ④まとめ



発表 みどりが丘小学校 高宮昭裕校長
キャンプ参加した児童
学校支援委員会 鈴木 介人
発表日 平成25年2月9日

避難キャンプに向けて準備プラン

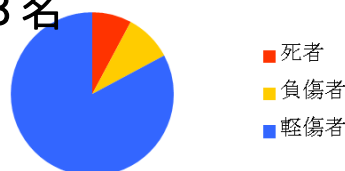
被害を想定



シナリオ作成

千葉県発表
東京湾直下型から
地域の被害を想定
建物倒壊数＝少
エレベーター停止＝多
避難者数 2545名
死者 2名
重軽症者 63名

緑が丘地区の地震による
人的被害（人数）

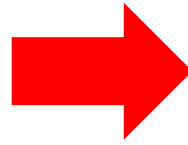


日中家庭にいて、地震に
遭い、避難を想定する。
たまたま避難した一時避
難場所が駅前広場、避難
所となる学校へ避難する。



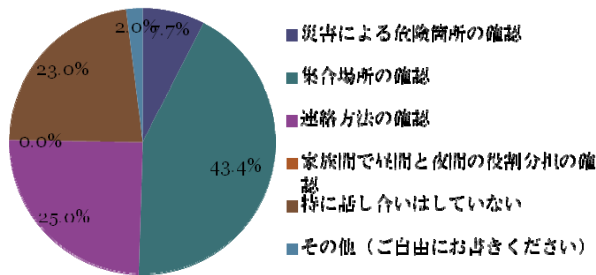
避難キャンプに向けてプラン作成

情報収集



実施

家庭のアンケート実施
各家庭の防災準備について調査
公的機関・企業での災害に対する備えや、協力可能なかの調査



日にちは設定し、開始時間については教えず、当日に地震発生というメール配信して、指示書を開封して、避難キャンプを開始しました。



準備での情報収集から得られたものを生かして。

【防災マップ作成】

参加者・協力者の防災意識が高い人たちとの交流によって、得られ情報をもとに、防災マップを作成

①渋滞情報

3. 1 1 の際の渋滞情報

②災害情報

鉄道の高架橋被害、集会施設情報

③他の地区

近隣学校（子供サミット）による、安全マップ、地域子育て支援センターからの情報



避難キャンプに向けて

学校支援委員会で行った理由は？

【メリット】

①人事異動がない組織

校長先生が主体である場合は、異動したら、そこで途絶えてしまう。

②組織にとらわれない発想

公的ルートのみならず、地域企業に参加協力
(ちばコープ・サイサン・石井食品)

【デメリット！！】

①組織的にはまだ脆弱

最初は、1人からスタート！！
学校も新設3年目であった。

②認知度が低い

学校支援委員会とは？なんだ？



キャンプへみんなの道のり

【八千代市】

消防の人員派遣・起震車・水道局
民間団体（消防組合等）から支援情報

【学校】

教職員の参加・ディスカッションの進行

【保護者会】

参加者リスト・マニュアル作成
当日の受付、進行、近隣企業協力

【自主防災】

自治会での説明会・子どもたちの
防災講話

【協力企業】

ちばコープ（非常食・掲示物）
サイサン（ガス・ガス発電機）
石井食品（非常食）搬入



「みどりが丘小学校避難キャンプ」

第一部（防災ウォークラリー）

駅前広場にて開催

- ①消火訓練
バケツリレー・消火器
- ②地震体験（起震車）
- ③発見ゲーム
A E D・公衆電話・消火栓
- ④応急処置ゲーム
隣接高校の生徒が、
怪我人役で参加
- ⑤情報取得ゲーム



第二部 避難キャンプ

- 15:00 開所式
- 15:15 防災倉庫探検
- 15:45 防災クイズ（自主防災隊）
- 16:00 キャンドル作り・物資搬入
- 16:30 夕飯作り（カレー・炊飯袋）
- 18:30 夕飯タイム
- 19:30 グループディスカッション（避難所運営）
- 20:00 キャンドルタイム
- 22:00 就寝（夜間見回り）
- 翌日6:30 起床・体操
- 7:00 配膳・食事
- 8:00 異常気象講話
- 9:00 修了式



キャンプの感想は？

良かった、楽しかったところ

- ウォークラリーは楽しかった。
- 消火栓は、普段は気にしなかったけど、沢山あることをわかりました。
- 外で作った、ごはんがとてもおいしかった。また、食べたいです。
- 作ったキャンドルで、みんなで丸くなって、発表をして、キャンドルが輝いて綺麗だった。



キャンプの感想は？

残念だったとおもったところ

- 夕飯を食べたあとで、夕飯の食事が全員にちゃんと、配れず、食べれなかったこと。あとで聞いてごめんなさいと思った。
→今度は、みんなで「いただきます」をしてから、食べたい。
- もっと、いろいろと手伝いをやればよかった。
(二日目の朝の配膳はぼくたちがやりました。)



そして、わたしたちが キャンプの後に行ったこと。

- ①わたしたちの考えで、安全マップをつくってみました。
- ②作ったマップを使って、
1. 2年生に劇・紙芝居で教えました。
- ③みんなからは、おもしろい
わかりやすいって、
くれました。



言
子どもへの
効果大きい

避難キャンプに参加した、お母さん、お父さんからの感想(アンケートより)

1

- ・防災について、もっと取り組みたい

2

- ・友達、地域の人と仲良くできるように繋がりを作りたい

3

- ・自分達で、もっと体験できるようなプログラムをしたい

特に良かったと感じるのは、 みんなのディスカッション

初めての試みが、先生が中に入らずに、地域・家族・子どもたち（1～6年生）のディスカッションでした。

- ①学年単位でなく、全学年で話し合う。
- ②避難所の問題をだして、話をしていくことで、一体感が生まれました。
- ③親同士が、子どもたちの意見を引き出して、つなげていく過程で、絆を感じさせていた。



キャンプ後の課題と成果

- ①1回の企画ではなく、**継続させていく必要**
→子どもたちにどう力をつけさせるのかが課題
- ②子どもたちが一連の体験から、何をすべきなのか？何を取り組むべきなのに**気づき始めた。**
- ③キャンプを行ったことで、保護者の**意識が高まった。**（備え・災害協力）
- ④子どもたち・家族・地域の人とのディスカッションから、**確かな絆を感じとれた。**



そこで、来年のキャンプに向けて。

- ①子どもたちに力をつけさせるために
→子ども中心に、防災キッズ隊を組織
- ②体験型&日常用品による
→野外調理・屋外での就寝にも挑戦
- ③地域、ほかの学校との連携
→自治会・ほかの学校の参加
- ④参加者が楽しんで継続
できるような企画
→大声コンテスト・放水クイズ



避難キャンプのまとめ

- ①初めての取組であったが、参加者からは再度やりたいとの意見もあり、満足度が高い。
- ②ボランティアで参加した地域の方や、企業も参加して頂いて、地域の防災力が高まった。
- ③子どもたちが一連の活動から、何が必要なのかを感じ始めていること。



八千代市立みどりが丘小学校 サポートチーム

高宮校長先生・児童・サポートチーム（鈴木介人）



次は、挑戦してみよう
サバイバルキャンプに続く